

2018年4月20日

東ソー株式会社

耐ヒートサイクル性向上PPSコンパウンドを開発

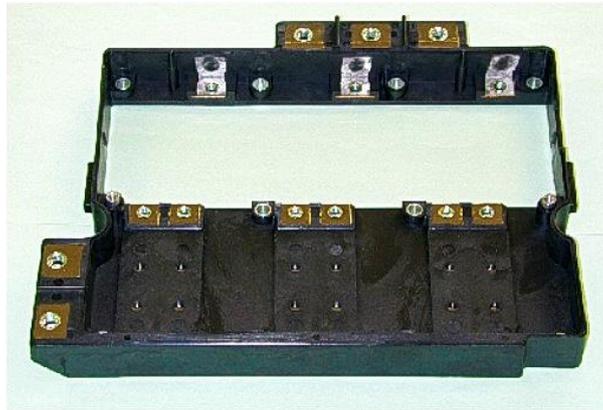
東ソーは、従来の業界スタンダード品と比べて耐ヒートサイクル性能^(※1)を80%向上させたPPS（ポリフェニレンサルファイド）コンパウンドを開発しました。

PPS樹脂は近年、燃費・消費電力の改善を目的とした自動車の軽量化による金属部品の代替や、電動自動車の普及などに伴い、需要が拡大していくことが予想されています。自動車では金属端子・電極等、金属インサート成形^(※2)される部品が多く、収縮率などの異なる素材から成る部品の耐ヒートサイクル性の向上が重要な要素となります。

また、開発品はウェルド強度^(※3)や流動性も改良を行い、製品の薄肉化・複合化による自動車の更なる軽量化に貢献することが期待できます。

今後、サンプルワークを本格的に開始し、量産化を検討していきます。

当社は国内初のPPS樹脂製造メーカーとして、今後も長年の知見に基づく技術を活かした製品開発に力を入れていきます。



金属インサート成形した部品

【用語解説】

- ※1 耐ヒートサイクル性能
高温と低温の温度変化に対する耐性
- ※2 金属インサート成形
樹脂成型用金型に金属を挿入して成形する手法
- ※3 ウェルド強度
熔融樹脂が会合する、製品の脆弱部分の強度